

埼玉トヨペット
Green Brave



GR 86/BRZ Race

プロフェッショナルシリーズ

不安定な天候に左右され、本来のスピードを発揮できず

第6戦は日曜日に予選と決勝(1レースのみ)を行う1DAYレース。土曜日に行われた専有走行では吉田選手がトップタイム、川合選手は3番手のタイムをマーク。開幕戦に引き続き好調をキープしており、パドックでの注目度は日増しに高まっている。「後ろからついてくる選手がいますし、意識されていると感じます」と川合選手。日曜日の天候は晴。プロシリーズの予選は20分間。予選直前、一時的に激しい雨が降ったため、シグナルが青になってもコースインするクルマはなく、全ドライバーが路面の乾くタイミングを見極めている。予選開始から10分後、先陣をきって川合選手がコースイン。2周目に2分13秒056をマークするも、路面は若干濡れており、土曜日のベストには届かない。残り5分となったところで、吉田選手が多くのライバルとともにコースイン。2周目に2分13秒028をマークするも、順位は8位。川合選手は吉田選手のすぐ後ろ、9位で予選を終えた。決勝の周回数は10周。全車がグリッドについた頃、雲行きがみるみるうちに怪しくなり、阿蘇の山々に雷鳴がとどろく。果たしてチェッカーまで天気はもつのか? そんな不安をよそに決勝がスタート。吉田選手は1つ順位を上げ、7位でオープニングラップを終了。前を行く大西選手との間隔をつめていく。4周目に大西選手を抜き、さらに前を追うが、6周目にバケツをひっくり返したような雨が降ってくる。吉田選手は混乱の中でひとつ順位を落とし、7位を走行。セーフティカーが導入され、隊列走行を続けるが、天候回復の見込みがないため、7周でレースは終了。また、川合選手は好スタートをきったが、反則スタートの裁定が下り、ドライブスルーペナルティを課せられてしまう。ピットロード通過後、最後尾から追い上げるも、6周目の3コーナーで水たまりにのってしまいコースアウト。タイヤバリアに衝突してしまう。川合選手はコースに復帰するも、順位は24位。吉田、川合両選手ともに練習日のスピードを本番で発揮できず、悔しい週末に。川合選手は谷口選手と3ポイント差のランキング2位で第4戦十勝スピードウェイを迎える。

#160 埼玉トヨペット GB 86



吉田 広樹
決勝：7位
予選：8位
(2分13秒028)

■予選

クルマのフィーリングはそんなに変わってなく、自分がまとめきれなかったという感じです。自分のペースでタイヤをあたためて、後ろに何台かいたぐらいなので、普通にクリアで走れました。前回、1レース目で完走できず、2レース目もポイント圏外だったので、もちろん表彰台を目指していきたいのですが、しっかり完走を目指して走りたいと思います。

■決勝

いろいろありすぎて、すごくタフなレースでした。自分は順位を2つ上げ、バトルしている最中に大雨が降り、抜きつつコースアウトしつつみたいなことになり、生き残るのが精いっぱいレースでした。クルマのフィーリング、はじめは良かったのですが、前の選手を抜くのに最初に無理しすぎてタイヤを使ってしまいました。次戦では前回と今回、2戦分のリベンジを頑張ります。

#521 埼玉トヨペット GB 86



川合孝汰
決勝：24位
予選：9位
(2分13秒056)

■予選

路面温度が上がり過ぎる前に行きたいというのがあって、最初にコースインしました。水たまりもある状態で、1周走ってもう1回いったのですが、やっぱり乾いていませんでした。1~3コーナーが濡れていて、その部分でコンマ1秒落ちという感じでした。全体的にはまとめられたのですが、昨日のようなタイムは出なかったので、ちょっと残念ですね。

■決勝

サイドブレーキを目一杯引きながら待っていたのですが、その状態でクルマが進んでしまい、フラッグ判定で最後尾に。データ取りを意識しながら走りしようと思ったのですが、急にコース状況が悪くなり、単独なので前の状況がよくわからないタイミングでブレーキを踏んだところ、結構な雨量で。ハイドロでなにもコントロールできずに、そのままぶつかってしまいました。

メカニックコメント from 深谷支店・青木隼人

初めてのレースでわからないこともいっぱいありましたが、いろいろなことを教えてもらい、良い経験になったと思います。走った直後のクルマはすごく熱く、そのまま整備するので、ケガしないようにとか、そういった部分が大変でした。ミッションを降ろしたり、今までやらない部分をやりましたので、今後店舗での作業に活かしていきたいです。

クラブマンシリーズ(オープン)

■ ■ 自己ベストの予選 8 位を獲得するも初入賞ならず ■ ■

公式レース 2 戦目の榎村選手がクラブマンシリーズ (オープン) に出場。エントリー台数は 17 台。榎村選手は吉田、川合両選手とともに木曜日から走行を開始。オートポリスのコース習熟に務めた。「ターン 4 と 5 が難しい。あと、ジェットコースターと呼ばれるターン 11 も大事ですね。ここでスピードにのせないと後半セクションのタイムに影響します」と榎村選手。GB ドライバーの走行データや車載カメラの映像を何度も見直し、タイム短縮のためのヒントを探った。予選は 10 時 40 分から行われ (20 分間)、榎村選手は先頭でコースイン。榎村選手は 1 回目のアタックでベストタイムを大きく更新する 2 分 18 秒 096 をマーク。8 位につけ、目標順位 (8 位以上) をクリアした。榎村選手は「エントリー台数の半分以上を目標にしていたからうれしいです。予選はプロの 2 人に教えてもらった縁石の使い方、クルマの姿勢を安定させるアクセルの踏み方、ブレーキの踏み方を実践しました」と笑みを浮かべる。10 週の決勝レースがスタート。榎村選手はひとつ順位を下げ、9 位でオープニングラップを終了。順位をキープして周回を続けるが、反則スタートの裁定が下り、ドライブスルーペナルティを課せられてしまう。榎村選手は 5 周目にピットロードを通過し、レースに復帰。6 周終了時の順位は 12 位。榎村選手はあきらめずに前を追い、ライバルとのバトルを繰り広げながらチェッカーを受けた。目標 (5 位以上) はクリアできなかったものの、レースを楽しむことができ、満足そうな榎村選手。「次戦では半分より上に行きます!」と力強く宣言してくれた。

#522 GB CAMP 86



榎村徳俊
決勝：12 位
 予選：8 位
 (2 分 18 秒 096)

■ 予選

チーフエンジニアの坂本さんから速い人に引張ってもらうのがいいから、ピットの場所 (1 コーナー寄り) をいかして前にいき、あとは速い人の後ろにつけ、とアドバイスをもらいました。基本的なことを忘れずにコースを意識して走りました。決勝でもこの基本を忘れずに 1 つでも前のポジションに行けるように頑張っていきたいと思います。

■ 決勝

とっても悔しいです。スタートでクルマが少し動いたんですね。ラインを越えていないからいいかなと思っていたら、ドライブスルーペナルティになりました。最初 BOX が出た意味がわからなかったのですが、仕方ないですね。最後尾まで落ちたかなと思いましたが、そこまではいかなかったのが良かったです。今回学んだことをしっかり活かして、次回は絶対に半分から上に行きます!

【次戦予告】 9 月 26 日 (土) ~27 日 (日) 十勝スピードウェイ (北海道更別村)

PARTNERS



アイ・ディ・アイ



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉スリーボンド株式会社



埼玉トヨペット陸送株式会社



株式会社テレビ埼玉



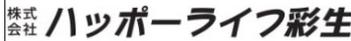
株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社ハッピーライフ彩生



富士ゼロックス埼玉株式会社



丸和工業株式会社



株式会社リビコー



レカロ